【日本の大学】第１０回――国際教養大学：教育充実度と国際性トップ

国際教養大学は、これまで「大学」シリーズで紹介してきた日本を代表する、総合的な教育・研究を目指す国立大学とは性格を異にする大学である。日本で初めての地方独立行政法人が運営する公立の単科大学であり、設立された場所は東北地方の日本海側にある秋田県で、設立時期は 2004（平成 16）年と歴史も浅い。

1990 年（平成 2）年に開校し、2003（平成 15）年に閉校となった米国ミネソタ州立大学機構秋田校の跡地に開かれた。ミネソタ州立大秋田校は 1986（昭和 61）年の日米首脳会談（中曽根首相――レーガン米大統領）で米国の大学の日本校設立の重要性で一致したのを受けて全国で設立された学校の一つだった。「日本に居ながらにして米国留学ができる」と

開校当初は人気を呼んだものの、日本の大学卒業資格が取れないことや厳しい授業に耐えられずに中退者が続出。2 年目以降、学生数が減少して経営危機に陥った。当時、全国で 30～40 校が開校されたようだが、現在も残っているのは、数校のようだ。

こうした行き詰まりの中で、21 世紀に国際社会に通用する人材を秋田で育てる、という主旨の下で、秋田県当局は、国際系の大学設立は何としても実現したいと熱心な働きかけと検討作業を続けた。検討委員会は、東京外語大学の学長だった中嶋峰雄氏を委員長に招き、「グローバル時代の未来を切り開くため英語をはじめとする外国語の卓越したコミュニケーション能力とグローバルな視野の伴った専門知識を身につけた実戦力のある人材を育成し、国際社会に貢献する」ことを理念として掲げることを決めた。03 年には、大学としての設置認可が下り、開学にこぎ着けた。英語名は Akita International University(愛称 AIU)である。

初代学長となった中嶋氏は設立に際して、教育プログラムや諸活動にグローバルな視野を組み込み、カリキュラムのすべてを英語で実施し、世界の人々と効果的に理解し合えることの重要性を強調した。大学では、広範にわたる学術交流ネットワークを構築し、すべての学生に 1 年間の留学を義務付けた。キャンパスに多文化の学生の学住環境を形成し、大学全体を通じて教養教育の精神を涵養するとともにこれを振興することを通じて、グローバル化時代の新たな教育ブランドである「国際教養教育」を目指して創始にこぎ着けた。

以下、同大学のホームページなどから大学の現状を見ていこう。

大学では、教育理念である「国際教養教育」を掲げて、学生たちが個を確立し、高潔な精神と情熱をもって諸課題に立ち向かい、地域社会と世界に貢献できるグローバル社会のリーダーたりうる人材を育成することを使命としている。

唯一の学部である国際教養学部では具体的に次の 8 項目を教育目標として掲げた。

・多様な文化と言語的背景を持つ人々と関わり、効果的に協働することを可能にする英語及びその他の言語を操る能力；
・世界の文化、人間社会と自然界の広範にわたる知識；
・自己の文化とアイデンティティに対する深い認識；
・現代の複雑な課題を多面的に理解すること；
・理論に基づく洞察力、論証力、探究力、自省と思慮深い行動に必要となる知識及び実践的技能；
・知識、理論、情報を統合する能力；
・創造力と、自律的に考え情報に基づき判断できる能力；
・地域及び世界レベルの社会構成員としての認識と活動の源となる個人的及び社会的責任感。

以上の資質・能力を身につけた者で、経済及びビジネスを中心に学修し、グローバル・ビジネス課程を治めた者に「学士（グローバル・ビジネス)」を、また、北米、東アジアおよびトランスナショナル分野を中心に学修しグローバル・スタディズ課程を治めたものに「学士（グローバル・スタディズ)」を授与する。学士号を習得する要件としては、同大学に 4 年以上在学し、所定の授業科目を履修し 124 単位以上を修得し、成績が累積 GPA2.00 以上であることが求められる。なお、3 年以上で卒業できる早期卒業制度もある。1 年間義務付けられている海外留学については履修計画に基づき学修を進めるとともに、英語、またはその他の言語を駆使し、異文化を深く理解し、自立した学修者として問題や困難に創造的な解決をも身につけることが求められている。

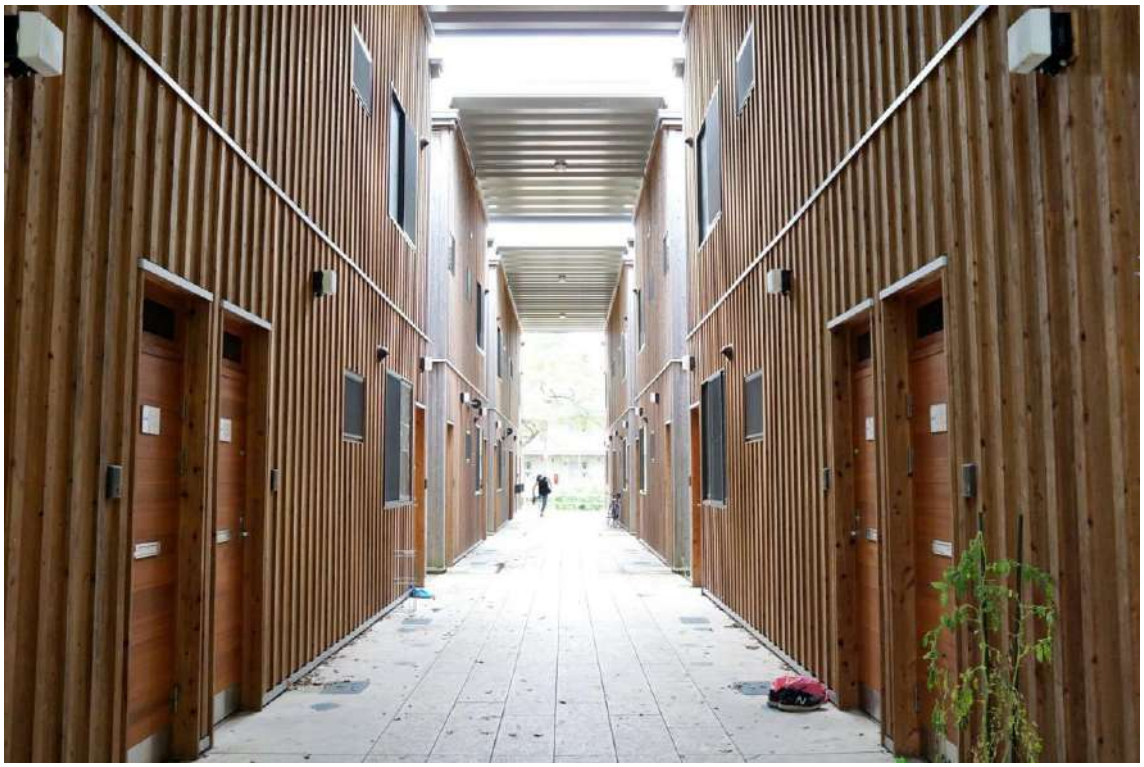
以上が、卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）であり、この方針を踏まえた教育目標を達成するため、学修の探究方法として、批判的思考、量的論証、経験的方法、社会科学的視点、人文科学的・芸術的視点を盛り込んだ「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー)」を示している。

授業は、少人数クラス編成を基本とし、すべての授業を英語で行う。入学した学生は、オリエンテーション科目履修と並行して英語のレベル別にクラスを編成し、集中英語課程（EAP）で学術英語の訓練を受けるとともに大学での学修方法を学ぶ。そのあと、基盤教育に進み、社会科学、芸術・人文科学、数学・自然科学、世界の言語と言語学、保健体育、日本研究などの科目を通じて知的な土台を築く。

学修が特定分野に偏らないように選択必修などの要件も設定されている。30 単位を修得するまでに、専門教養課程のグローバル・ビジネス課程とグローバル・スタディズ課程のどちらかを選択し、より専門的な分野の学修を通じて分析力、実践的なスキル、問題解決のための創造力、発信力などを身につけていく。

この間、必要な英語能力と履修単位の要件を満たした学生には、海外で履修計画に沿った学修を進めるとともに、多様な言語、文化、人種、価値観に触れ人間的な成長を促すため、1 年間の留学が課せられる。

入学した学生は、1 年間の寮生活、留学に向けた TOEFL TEST スコアの取得、1 年間の留学など各段階に応じて様々なハードルがあるが、これまで日本の大学ではほとんど見られなかった教育理念や方針、さらにこうした教育を受けた卒業生たちの社会での評価の高まりなどを受けて、年々、大学の評価は高まっている。



大学宿舎

世界大学ランキング日本版 2020 でみると、総合評価では第 9 位だが、中身を見ると、教育充実度と国際性がトップを占めている。また、有名・一流企業への就職率も非常に高くなっている。

1 学年の募集人員は 175 名（4 月入学 150 名、9 月入学 25 名）で、入学時には志望する過程を決めず、入学後 2，3 年後に、それぞれの学生の興味や求める専門知識に合わせて二つの課程の中から選択する。入学した学生は「英語教育実践領域」「日本語教育実践領域」「発言力実践領域」のいずれかに属し、それぞれの分野での専門家を目指す。

教員は学部が 54 名、大学院 12 名であり、学生は北海道から沖縄まで全国から集まっており、現在 871 名が学んでいる。また、海外からの留学生は 30 か国、151 名に上る。（以上 2019 年 4 月現在）

秋田竿灯祭に参加するために練習している学生

全国の大学も同様であろうが、少人数で寮生活をしながら学修し、1 年間は海外留学を義務付けている国際教養大学にとって、今回の新型コロナウィルス禍の及ぼす影響は非常に大きいものがある。春学期だけでなく 9 月からの秋学期に関してもキャンパスを閉鎖し、全面的にオンライン講義を行うことにしている。延期して 9 月に開く予定だった入学式も対面からオンラインでの入学式に変更を余儀なくされた。また、1 年間義務付けている海外留学についても、2020 年秋留学に関して派遣も受け入れも中止となった。

2021 年 4 月からは従来の「グローバル・ビジネス（GB)」と「グローバル・スタディズ（GS)」の 2 課程に加え、新しいカリキュラムを導入する。GS 領域（課程）にサステナビリティ分野を加えるとともに、新たに「グローバル・コネクティビティ（GC)」領域を設ける。GC 領域は、自然科学と人文科学の枠を超えて、多様な学問を有機的に接続（コネクト）して問題を開設する能力を育む。この新カリキュラムによって、現在、そして近未来の社会が抱えている様々な課題に対してさらに網羅的、学際的、探究的なアプローチが可能となり、応用範囲が拡大する。

初代学長は、東京外国語大学の学長も務めた中嶋嶺雄氏である。氏は東京外国語大学卒、東京大学大学院で修士、博士課程を修了。政治学者、国際社会学者であり、専門は現代中国政治。2004 年に国際教養大学の初代理事長・学長に就任した。日本に少なかった国際的なリベラルアーツ・カレッジの設立、発展に尽力した。同大学が目指している方向を推進、改革を進めた。

2013 年、現職のまま、76 歳で死去。後任には、「大学教育の考え方がまったく一致している」と生前、中島が推薦している鈴木典比古氏（ICU 元学長）が 3 か月後に、学長に就任した。

中嶋氏は 14 年 11 月に開学 10 周年式典で、「名誉学長」の称号が授与され、大学図書館の名称も「中嶋記念図書館」となった。

中嶋記念図書館

文：滝川　進

写真：国際教養大学 HP、FaceBook から